

令和 5 (2023) 年度栃木県立図書館運営評価について

平成 20(2008)年 6 月に図書館法が改正され、公共図書館の運営状況についての自己評価と改善が努力義務化された。また、平成 24(2012)年 12 月には、文部科学省から、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」が改正告示され、運営状況に関する自己評価の実施をはじめ、レファレンスサービス等情報サービスの充実などに関する規定が整備された。

さらに、本県においては、県民ニーズの多様化や市町村立図書館の整備の進展に伴い、県立図書館としての今後のあり方を検討するために「栃木県立図書館あり方検討委員会」が設置され、平成 24(2012)年 1 月に「とちぎの知の拠点」として目指すべき姿が示された。

このような中、より客観的な視点からサービスの充実を図るため、平成 25(2013)年度から栃木県立図書館運営評価を導入し、サービス向上を目指しているところである。

なお、本評価制度導入から 5 年が経過した平成 30(2018)年度に評価指標の改定を行ったが、本改定から 5 年目に当たる令和 4 (2022)年度については、翌年度から新県立図書館構想検討が予定されていたため、各評価指標を据え置くこととした。

1 根拠法令

【図書館法】

(運営の状況に関する評価等)

第 7 条の 3 図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

【図書館の設置及び運営上の望ましい基準】 (平成 24(2012)年 12 月 19 日文部科学省告示第 172 号)

第二 公立図書館

一 市町村立図書館

1 管理運営

(一) 基本的運営方針及び事業計画

- 1 市町村立図書館は、その設置の目的を踏まえ、社会の変化や地域の実情に応じ、当該図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針（以下「基本的運営方針」という。）を策定し、公表するよう努めるものとする。
- 2 市町村立図書館は、基本的運営方針を踏まえ、図書館サービスその他図書館の運営に関する適切な指標を選定し、これらに係る目標を設定するとともに、事業年度ごとに、当該事業年度の事業計画を策定し、公表するよう努めるものとする。
- 3 市町村立図書館は、基本的運営方針並びに前項の指標、目標及び事業計画の策定に当たっては、利用者及び住民の要望並びに社会の要請に十分留意するものとする。

(二) 運営の状況に関する点検及び評価等

- 1 市町村立図書館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の図書館サービスその他図書館の運営の状況について、(一)の 2 の目標及び事業計画の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うよう努めなければならない。

二 都道府県立図書館

6 準用

第二の一に定める市町村立図書館に係る基準は、都道府県立図書館に準用する。

2 構成

「栃木県立図書館あり方検討委員会報告書」及び令和5(2023)年度経営方針を踏まえ、以下の4機能について、評価指標を設定する（別紙「体系図」参照）

〈“とちぎ”のことなら何でもわかる図書館〉

①地域資料情報センター機能の充実

〈県内図書館をリードする中核的図書館〉

②市町立図書館等支援機能の充実

③読書活動支援機能の充実

〈県民の課題解決のための図書館〉

④課題解決支援機能の充実

3 評価方法と実施サイクル

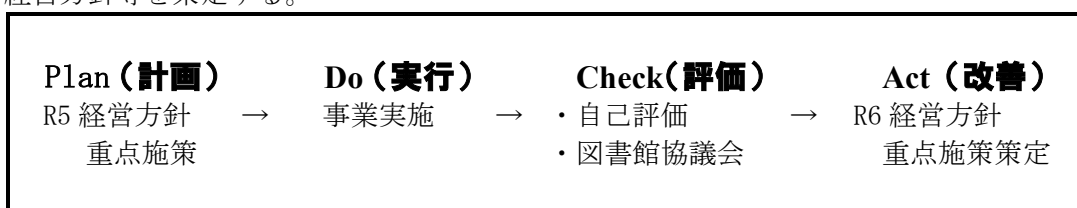
（1）評価方法

各評価指標に対して数値目標を設定し、その達成度を評価する。

数値目標に対する達成率	評価
目標を達成した（100%以上）	A
概ね目標を達成した（80%以上 100%未満）	B
目標をある程度達成した（60%以上 80%未満）	C
目標をあまり達成できなかった（40%以上 60%未満）	D
目標を達成できなかった（40%未満）	E

（2）実施サイクル

各指標に対して自己評価を行うとともに、図書館協議会からの意見を反映しながら次年度の経営方針等を策定する。



栃木県立図書館運営評価の体系図

目指すべき姿

～とちぎの“知”の拠点としての更なる飛躍のために～

【基本理念】

県立図書館は、過去から引き継がれてきた“知”との出会い、新たに未来へと引き継がれていく“知”の創造の場であり、人と情報、人と人をつなぎ、とちぎの人づくり、地域づくりを支える“知”の拠点である。

[1] “とちぎ”のことなら何でもわかる図書館

[2] 県内図書館をリードする中核的図書館

[3] 県民の課題解決のための図書館

【R5(2023)重点施策】

1 知の財産を守り育み、発信する取組の充実
○地域資料情報センター機能の充実

- ・地域資料の網羅的収集
- ・栃木県に関する情報発信

2 図書館と人と情報をつなぎ、県民ニーズに対応したサービスを展開
○市町立図書館等支援機能の充実

- ・相互貸借体制、栃木県総合目録システムの充実
- ・市町立図書館等に対するレファレンス支援、職員研修の充実

○読書活動支援機能の充実

- ・子どもの読書活動を推進するための、指導者のスキルアップや関係機関との連携強化

3 知の財産を活用し、県民の課題解決を支援する取組の充実
○課題解決支援機能の充実

- ・社会情勢等に応じたテーマによる課題解決支援

【R5(2023)評価指標】

1 地域資料蔵書数

2 レファレンス協同データベース(本県地域関係)新規・更新事例登録数

3 「とちぎ」に関するテーマ展示回数

4 地域資料貸出点数

5 地域資料に係るレファレンス件数

1 相互貸借点数(当館貸出分シェア)

2 当館支援に係る市町立図書館等満足度

3 市町立図書館等協力レファレンス件数

4 総合目録検索件数

5 図書館職員対象研修会参加人数

6 図書館職員対象研修会参加者満足度

7 子どもの読書ボランティア指導者派遣依頼者満足度

8 児童サービス研修会参加者満足度

9 児童サービス研修会参加者人数

1 バスファインダー作成点数

2 テーマによる展示実施回数

3 利用者満足度(資料・情報の入手)

4 レファレンス件数

5 HPTトップページアクセス件数

6 県立図書館蔵書検索件数

7 県内図書館横断検索件数(総合目録索件数の再掲)

8 身体障害者への資料郵送貸出点数

4 評価

[1] “とちぎ”のことなら何でもわかる図書館

1 知の財産を守り育み、発信する取組の充実

栃木県に関する資料の網羅的な収集と保存を行い、「栃木県に関わる情報の総合窓口」として、地域資料・情報の保存及び発信を行う。

○地域資料情報センター機能の充実

【令和5(2023)年度の具体的な取組】

- ・ 出版情報や古書目録、新聞、雑誌、インターネット等、多様な媒体を通じて地域資料の出版情報を収集し、蔵書の更なる充実を図った。
- ・ 本県出身や在住等のゆかり作家による作品、本県を舞台とする文学作品等について、積極的に収集した。
- ・ G7 栃木県・日光男女共同参画・女性活躍担当大臣会合に際し、「日光紀行」の関連展示を行うとともに、デジタルアーカイブ「栃木県立図書館デジタルコレクション」に「日光関連資料」のカテゴリを追加し、デジタル化資料14点を新たに公開した。
- ・ 栃木県の教育史に関する資料について、原資料の保存と利便性の向上の観点からデジタル化を行った。
- ・ 資料保存のため、業務委託により新聞等の製本を実施した。
- ・ 文書館、美術館、博物館等に対して、企画展のための資料の特別貸出等を行うとともに、地域資料室内で各館の企画展と連携した展示コーナーを設置し、情報発信を行った。
- ・ とちぎに関する調査依頼に丁寧に対応するとともに、国立国会図書館が運営する「レファレンス協同データベース」へ積極的に事例を登録し、利用者の調査支援に努めた。
- ・ 図書館だよりやホームページ、研修等のさまざまな機会を捉えて、地域資料室やレファレンスサービスの周知を図った。

評価指標 1-1

地域資料蔵書数【地域資料の充実度を示す】

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
84,681 点 (H28 実績)	目標	91,600 点	93,300 点	94,800 点	97,000 点	98,700 点
	実績	91,923 点	93,810 点	95,892 点	97,951 点	99,824 点
	達成率	100%	101%	101%	101%	101%
	評価	A	A	A	A	A

評価指標 1-2

レファレンス協同データベース*1 本県地域関係新規・継続事例登録数

【栃木県に関する調査研究への支援成果及びその全国への情報発信を示す】

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
60 点 (H28 実績)	目標	60 点	60 点	60 点	60 点	60 点
	実績	60 点	60 点	60 点	60 点	60 点
	達成率	100%	100%	100%	100%	100%
	評価	A	A	A	A	A

*1 レファレンス協同データベース

国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、調査用データベース。レファレンス事例、調べ方マニュアル、特別コレクション及び参加館プロフィールに係るデータを蓄積し、インターネットを通じて提供することで調査研究活動を支援することを目的とする。

評価指標 1-3**「とちぎ」に関するテーマ展示回数【地域資料の充実度を示す】**

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
12 回 (H28 実績)	目標	12 回	12 回	12 回	12 回	12 回
	実績	13 回	15 回	15 回	19 回	44 回
	達成率	108%	125%	125%	150%	367%
	評価	A	A	A	A	A

評価指標 1-4**地域資料貸出点数【栃木県に関する調査研究への支援状況を示す】**

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
1,975 点 (H28 実績)	目標	2,100 点	2,100 点	2,100 点	2,100 点	2,100 点
	実績	2,105 点	2,578 点	1,884 点	2,107 点	1,882 点
	達成率	108%	125%	90%	100%	90%
	評価	A	A	B	A	B

評価指標 1-5**地域資料に係るレファレンス件数【栃木県に関する調査研究への支援状況を示す】**

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
2,110 件 (H28 実績)	目標	2,250 件	2,250 件	2,250 件	2,250 件	2,250 件
	実績	2,440 件	2,605 件	2,838 件	2,776 件	2,527 件
	達成率	108%	116%	126%	123%	112%
	評価	A	A	A	A	A

【自己評価・分析】

- ・ 県庁や学校図書館からの寄贈・移管の照会が増加しており、地域資料の保存施設として認知が進んだと思われる。
- ・ 平成 30(2018)年度から県の電子行政資料の収集を開始しており、行政資料の発行形態が紙から電子へ移行しても途切れることなく収集している。さらに、県庁への照会方法等を見直したことでより安定的な収集・管理が可能となり、報告件数の増加にもつながった。
- ・ G 7 栃木県・日光男女共同参画・女性活躍担当大臣会合関連展示「日光紀行」においては、展示に併せて「栃木県立図書館デジタルコレクション」に新たに追加したデジタル資料も積極的に活用し、スマートフォンで二次元コードを読み取ることで、展示した一部の貴重資料のデジタル画像を全文閲覧できるようにした。
- ・ 文書館、美術館、博物館との連携展示に加え、県民の日関連展示「栃木県誕生 150 年 栃木「はっ」(初)(発)集めました。」、関東大震災と当県の関わりを紹介した「関東大震災から 100 年～大地震と大正の栃木県～」などの展示を行い、本県の魅力発信と利用者の興味の喚起につながった。
- ・ 「レファレンス協同データベース」への継続的な事例登録は、これまでの登録が 1,100 件を超え、とちぎに関する情報の調査支援の強化につながっている。また、当館は本事業への協力が評価され、14 年連続で国立国会図書館長から感謝状を授与されている。

【図書館協議会委員からの意見】

- ・ 新しい事業に取り組む姿勢は評価するが、新規にやることがあれば削減も必要である。本との出会いの演出をいろいろ工夫されたい。
- ・ 本の展示について、職員は裏方に徹するのではなく、「県立図書館司書の〇〇さんのおすすめ」とするなどもっと前に出てもよいのではないかと。職員の顔が見えるような雰囲気になると、新しいつながりができ、そこから新たなものが生まれるかもしれない。
- ・ 事業実施に関して更なる情報発信が必要である。新規事業等についてはもっとPRしても良いと思う。
- ・ 図書館は県民にとって文化の享受という点で重要である。県民も一人一人、生活様式や価値観の多様化が進んでおり、様々なニーズにこたえるのは大変だと思うが、図書館が県民の生活を彩り豊かにできるよう願う。
- ・ 重点施策については難しく敷居が高いと感じた。「楽しさ」といったものを演出するような方向性も欲しいと思う。

【今後の方向性及び次年度の方針】

- ・ 地域資料の充実に向けて、個人や学校、企業等が所有する地域資料の発掘に努め、寄贈依頼を継続して行っていく。
- ・ 今後とも県民の貴重な財産である地域資料の収集・保存に充分配慮するとともに、関連展示等を通じて本県の魅力発信を行う。その他、本県の魅力発信につながる展示や、県庁との連携展示に積極的に取り組む。
- ・ 電子行政資料の継続的な収集・保存及びホームページ上での公開に努め、県民への提供はもとより行政機関等での資料活用の推進を図る。
- ・ デジタル化資料のうち、著作権等の要件を満たした資料を順次「栃木県立図書館デジタルコレクション」内で公開する。
- ・ 「レファレンス協同データベース」への地域事例等の登録に継続的に取り組み、地域資料やレファレンスの周知を図るとともに、地域に関する様々な情報の調べ方を周知する。また、行政職員の業務支援のため、県庁へレファレンスサービスの周知を図る。

〔2〕 県内図書館をリードする中核的図書館

2 図書館と人と情報をつなぎ、県民ニーズに対応したサービスを展開

図書館と図書館、人と情報をつなぐ県内の中核的図書館として、図書館ネットワークを強化すると共に、市町立図書館等の支援を行い、県全体の図書館振興を図る。

○市町立図書館等支援機能の充実

【令和5(2023)年度の具体的な取組】

- ・ 図書館協力ネットワーク会議や満足度調査、巡回相談等で、市町立図書館等の要望や意見等を聴取し、資料相互貸借制度や栃木県図書館総合目録の円滑な運用に努めた。
- ・ 館外に所蔵資料を持参して行う出張展示において、相互貸借制度のPRを行った。
- ・ 図書館協力ネットワーク会議を3年ぶりに集合型で開催し、県内相互協力業務等について、協議及び意見交換を行った。
- ・ 巡回相談については、実施方法を訪問・オンライン・書面の選択とし、市町立図書館等職員が参加しやすい環境を整えた。
- ・ 市町立図書館等職員を対象とした研修については、演習やグループワーク等を伴う研修を集合型、講話を中心とする研修をオンライン開催とし、オンライン開催の研修については、研修の様子を録画し、後日動画配信を行うなど、受講者の利便性と研修効果のバランス向上を図った。また、各図書館からの研修依頼にも積極的に対応した。

評価指標 2-1**相互貸借点数(当館貸出分シェア)**

【資料の利用提供における市町立図書館への支援状況を示す】

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
20.7% (H28 実績)	目標	総件数の 20%以上	総件数の 20%以上	総件数の 20%以上	総件数の 20%以上	総件数の 20%以上
	実績	20.0%	20.8%	21.0%	20.7%	18.7%
	達成率	100%	104%	105%	104%	94%
	評価	A	A	A	A	B

評価指標 2-2**市町立図書館等支援満足度(県内図書館に対する調査)【当館の支援に対する満足度を示す】**

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
4.2 (H28 実績)	目標	4.2 以上	4.2 以上	4.2 以上	4.2 以上	4.2 以上
	実績	4.3	4.2	4.3	4.3	4.2
	達成率	102%	100%	102%	102%	100%
	評価	A	A	A	A	A

評価指標 2-3**市町立図書館等協力レファレンス件数**

【資料の利用提供における市町立図書館への支援状況を示す】

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
89 件 (H28 実績)	目標	90 件	90 件	90 件	90 件	90 件
	実績	91 件	76 件	135 件	99 件	89 件
	達成率	101%	84%	150%	110%	99%
	評価	A	B	A	A	B

評価指標 2-4**総合目録検索件数【中核図書館としての機能の充実度を示す】**

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
255,191 件 (H28 実績)	目標	260,000 件	260,000 件	260,000 件	260,000 件	260,000 件
	実績	264,504 件	340,095 件	372,478 件	442,563 件	158,481 件
	達成率	102%	131%	143%	170%	61%
	評価	A	A	A	A	C

* この評価指標は Google の Web アクセス計測ツールを使用して計測しているが、Google の仕様変更に伴い、R5.5 月までは「Universal Analytics」による検索件数を、R5.6 月からは「GoogleAnalytics4」による「栃木県内図書館横断検索」トップページの「エンゲージメント数」（当該ページ内においてユーザーがクリック・スクロール等の何らかのアクションを行った数）を採用した。

評価指標 2-5**図書館職員対象研修会参加人数【研修における市町立図書館等への支援状況を示す】**

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
364 名 (H28 実績)	目標	350 名	350 名	350 名	350 名	350 名
	実績	319 名	261 名	308 名	384 名	301 名
	達成率	91%	75%	88%	109%	86%
	評価	B	C	B	A	B

評価指標 2-6**図書館職員対象研修満足度【当館の支援に対する満足度を示す】**

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
4.0 (H28 実績) (5段階評価)	目標	4.0 以上	4.0 以上	4.0 以上	4.0 以上	4.0 以上
	実績	4.0	4.0	4.2	4.1	4.0
	達成率	100%	100%	105%	103%	100%
	評価	A	A	A	A	A

【自己評価・分析】

- ・ 巡回相談や研修等の機会を生かして、資料購入リクエスト制度や協力レファレンスサービスを含めた支援業務について理解を図るとともに、業務向上に向けた意見交換を行うことで、継続して高い満足度を得ることができている。
- ・ 市町立図書館等職員を対象とした研修については、オンライン開催により遠方の図書館職員の参加を促すとともに、出張研修会の開催や研修動画のオンデマンド配信により、通常は研修への参加が難しい職員の受講につなげることができている。
- ・ 評価指標 2-4 については、アクセス数の計測ツールとして使用している Google Analytics の仕様が 6 月から大幅に変更されたため、値が不連続となっている。
- ・ 評価指標 2-5 は、基準年である平成 28 年度に栃木県で開催された関東地区公共図書館協議会研究発表大会の県外参加者を含む数値を基準値としているため、数値目標が高く設定されており目標達成が難しい。なお、令和 4 年度は、関東地区公共図書館協議会研究発表大会が本県開催であったことから、多数の参加申込があった。

【図書館協議会委員からの意見】

- ・ 県立図書館として県全体を見た事業が多く、市町立図書館や読み聞かせボランティア等を対象とした研修等の取組を評価する。

【今後の方向性及び次年度の方針】

- ・ 資料相互貸借制度や栃木県図書館総合目録の円滑な運用に努め、市町立図書館等との連携強化を図る。
- ・ 協力レファレンスサービス等の市町立図書館等への支援業務をきめ細かく展開し、県全体の図書館サービスの向上を図る。
- ・ 市町立図書館等に対する職員研修は、より多くの職員が受講しやすい開催方法を検討するとともに、内容の充実に努める。

○読書活動支援機能の充実

【令和 5 (2023) 年度の具体的な取組】

- ・ 子どもの読書活動の推進や研究活動に役立つ資料を積極的に購入し、子どもの読書活動に係る支援機能の充実を図った。
- ・ 関係団体が主催する講座への協力及び連携展示に積極的に取り組み、関係者の利用を促進した。
- ・ 子どもの読書ボランティア指導者の継続意向調査を実施し、事業の円滑な運用を目指した。あわせて、指導者のスキルアップ研修は、引き続き受講対象者の拡大を目指し公開講座とし、広く関係者へ受講機会を提供した。
- ・ 生涯学習課が主催する「高校生読書活動推進事業」に参画し、読書コンシェルジュ育成研修で講師を務めたほか、アドバイザーとして活動を支援した。また、昨年度に続き、文芸講演会では希望する 2 名の読書コンシェルジュの協力を得た。
- ・ 県高等学校教育研究会図書館部会や宇都宮大学附属特別支援学校等からの依頼に応じて、教職員及び高校生・特別支援学校高等部生（図書委員）向け研修を開催した。
- ・ 県立学校等からの求めに応じ、授業支援のための図書セットの貸出を行った。

評価指標 2-7

子どもの読書ボランティア指導者派遣依頼者満足度【読書ボランティア支援の満足度を示す】

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
4.1 (新規) (5段階評価)	目標	4.1 以上	4.1 以上	4.1 以上	4.1 以上	4.1 以上
	実績	4.7	—	—	5.0	5.0
	達成率	115%	—	—	121%	121%
	評価	A	—	—	A	A

※R2・R3 は新型コロナウイルス感染症の影響で派遣実績なし。

評価指標 2-8

児童サービス研修会参加者満足度【当館の支援に対する満足度を示す】

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
4.1 (H28 実績) (5段階評価)	目標	4.1 以上	4.1 以上	4.1 以上	4.1 以上	4.1 以上
	実績	4.7	4.1	4.7	4.6	4.9
	達成率	115%	100%	115%	112%	119%
	評価	A	A	A	A	A

評価指標 2-9

児童サービス研修会参加人数【子どもの読書活動支援の充実度を示す】

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
26 名 (H28 実績)	目標	30 名	30 名	30 名	30 名	30 名
	実績	49 名	31 名	35 名	42 名	40 名
	達成率	163%	103%	117%	140%	133%
	評価	A	A	A	A	A

【自己評価・分析】

- ・ 読書活動支援室内での展示については、「さまざまな訳で読む名作」を2テーマで行うなど、当館の蔵書の特色を生かした展示を積極的に行い、子どもの読書関係者や保護者等の同室の利用促進や情報提供促進につなげることができた。
- ・ 読書活動支援室内に、特別なニーズのある子どもたちのための資料（LLブック、点字つきさわる絵本など）を集めた「りんごの棚」を開設し、障害のある子どもの支援及び資料の周知につながった。
- ・ 子どもの読書ボランティア指導者スキルアップ研修は、公開講座の参加者が70名に達する回もあり、県民の高いニーズを感じた。また、講座の中で情報交換・交流の時間を設け、地域を超えた情報交換の機会を提供したことが参加者の高評価を得た。
- ・ 子どもの読書ボランティア指導者の派遣事業については、依頼者から高い評価を得ている一方で派遣依頼件数は少ないことから、引き続き事業の周知が必要である。
- ・ 読書コンシェルジュ関連事業については、当館職員が研修講師等として積極的に参画するだけでなく、生徒の活動と連携した展示や文芸講演会での運営協力など、当館主催事業と連携した活動場所の提供にもつなげることができた。
- ・ 学校支援について、今年度は各種研修や会議等に足を運び情報提供に努めた結果、教職員や生徒向け研修依頼の増加、授業支援用の図書セット貸出の増加等の成果につながった。

【図書館協議会委員からの意見】

- ・ 子どもの読書ボランティア指導者スキルアップ研修についてはオンラインの開催であったが、時間が合わない人にも参加しやすいよう事後のアーカイブ配信等についても検討されたい。

【今後の方向性及び次年度の方針】

- ・ 県内の子どもの読書活動の推進に向けて、読書活動支援室の充実及びホームページ等による広報、指導者派遣事業の活性化等に努める。
- ・ 読書ボランティア指導者スキルアップ研修については、引き続き登録指導者のニーズに沿った内容の精査に努めるとともに、県内の子どもの読書関係者への研修機会としての研修のあり方についても検討を行う。
- ・ 生涯学習課主催の「高校生読書活動推進事業」に積極的に協力し、読書コンシェルジュの育成や活動支援に取り組むとともに、生徒の活動場所としての当館利用及び主催事業の活用にも積極的に取り組む。
- ・ 県内高等学校等との連携を深め、研修依頼や図書セット貸出依頼等に積極的に対応する。
- ・ 子どもの読書活動をめぐる情勢や参加対象者の要望等を踏まえて、各種研修テーマを設定する。また、参加者の利便性等を踏まえ、開催方法を検討する。

〔 3 〕 県民の課題解決のための図書館

3 知の財産を活用し、県民の課題解決を支援する取組の充実

県立図書館の豊富な蔵書を生かし、社会情勢等に合わせた情報提供を行い、県民の課題解決支援を図る。

○課題解決支援機能の充実

【令和 5（2023）年度の具体的な取組】

- ・ 県民の課題解決支援のため、図書館資料の充実や契約オンラインデータベースの積極的な活用をはじめ、様々な関係機関との連携に努めた。
- ・ 当館で重点テーマとしている「法律情報」「地域福祉情報」については、生活に身近な関連知識を得るための資料の充実に取り組んだほか、「読書バリアフリー法」に関するテーマ展示を実施し、情報提供を行った。
- ・ 県庁や関係機関と連携し、ロビーでの連携展示や出張展示、ブックリストの提供などに取り組み、当館の取組及び所蔵資料の周知に努めた。
- ・ パスファインダーについては、問い合わせの多かった大日本帝国陸軍第十四師団に関連する「栃木県内に駐屯した軍について調べる」をはじめ、4 点を新規に作成した。資料が豊富な分野について時間をかけて作成することで、利用者の利便性の向上に努めた。また、6 点の既存のパスファインダーの更新を行った。
- ・ 企画展示については、栃木県の魅力発信につながるテーマ展示や関係各所との連携展示、文学賞に関する展示などを行い、利用者の知的関心の喚起と当館所蔵資料の紹介に取り組んだ。また、ホームページやフェイスブックによる積極的な情報提供を行った。
- ・ 郵送によるコピーサービスについて、栃木県電子申請システムを通じた電子申請及び電子納付を開始し、非来館型サービスの充実を図った。

評価指標 3-1

パスファインダー^{*2}作成点数【課題解決のためのツールの提供状況を示す】

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
12 点 (H28 実績)	目標	14 点	14 点	14 点	14 点	14 点
	実績	14 点	14 点	14 点	14 点	10 点
	達成率	100%	100%	100%	100%	71%
	評価	A	A	A	A	C

^{*2} パスファインダー：特定のテーマに関する文献、情報の探し方・調べ方の案内

評価指標 3-2

テーマによる展示実施回数【社会情勢等に合わせた展示による情報提供の充実度を示す】

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
35 回 (H28 実績)	目標	35 回	35 回	35 回	35 回	35 回
	実績	38 回	36 回	38 回	43 回	64 回
	達成率	109%	103%	109%	120%	183%
	評価	A	A	A	A	A

評価指標 3-3**利用者満足度(目的の資料・情報が入手できたか)【図書館利用の満足度を示す】**

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
4.2 (新規) (5段階評価)	目標	4.2 以上	4.2 以上	4.2 以上	4.2 以上	4.2 以上
	実績	4.2	4.2	4.4	4.2	4.4
	達成率	100%	100%	105%	100%	105%
	評価	A	A	A	A	A

評価指標 3-4**レファレンス件数【調査研究への支援状況を示す】**

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
7,637 件 (H28 実績)	目標	7,800 件	7,800 件	7,800 件	7,800 件	7,800 件
	実績	7,931 件	8,030 件	8,669 件	8,186 件	7,551 件
	達成率	102%	103%	111%	105%	97%
	評価	A	A	A	A	B

評価指標 3-5**HPトップページアクセス件数【非来館型情報提供サービスの充実度を示す】**

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
127,283 件 (H28 実績)	目標	130,000 件	130,000 件	130,000 件	130,000 件	130,000 件
	実績	121,105 件	113,976 件	108,864 件	121,055 件	265,747 件
	達成率	93%	88%	84%	93%	204%
	評価	B	B	B	B	A

* この評価指標は Google の Web アクセス計測ツールを使用して計測しているが、Google の仕様変更に伴い、R5.5 月までは Google「Universal Analytics」によるアクセス件数を、R5.6 月からは「GoogleAnalytics4」による「栃木県立図書館」トップページの「エンゲージメント数」(当該ページ内においてユーザーがクリック・スクロール等の何らかのアクションを行った数)を採用した。

評価指標 3-6**県立図書館蔵書検索件数【非来館型情報提供サービスの充実度を示す】**

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
691,824 件 (H28 実績)	目標	700,000 件	700,000 件	700,000 件	700,000 件	700,000 件
	実績	854,012 件	1,462,665 件	1,448,743 件	1,841,397 件	1,804,081 件
	達成率	122%	209%	207%	263%	258%
	評価	A	A	A	A	A

評価指標 3-7**県内図書館横断検索件数(2-4 総合目録件数の再掲)【中核図書館としての機能の充実度を示す】**

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
255,191 件 (H28 実績)	目標	260,000 件	260,000 件	260,000 件	260,000 件	260,000 件
	実績	264,504 件	340,095 件	372,478 件	442,563 件	158,481 件
	達成率	102%	131%	143%	170%	61%
	評価	A	A	A	A	C

* Google の Web アクセス計測ツール仕様変更に伴い計測値を変更した。(評価指標 2-4 注記参照)

評価指標 3-8**身体障害者への資料郵送貸出点数【ハンディキャップサービスの充実度を示す】**

基準値	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
418 点 (H28 実績)	目標	430 点	250 点	250 点	250 点	250 点
	実績	209 点	224 点	210 点	125 点	113 点
	達成率	49%	90%	84%	50%	45%
	評価	D	B	B	D	D

【自己評価・分析】

- ・ 利用者の関心が高いパスファインダーについて、資料が多岐に渡り調査の難しいテーマを新規作成し、利便性の向上につなげた。
- ・ 文書館、美術館、博物館の企画展との連携展示のほか、県庁 16 課室等と連携した 18 回のテーマ展示、JICA 栃木デスクとの連携展示など、様々な機関と連携した展示を行い、多様な切り口からの所蔵資料の紹介につなげることができた。
- ・ 蔵書検索件数が年々増加傾向にある一方で、ホームページのトップページへのアクセスは減少傾向にある。ホームページのアクセシビリティやコンテンツ等の改善を図り、魅力ある情報発信に努める必要がある。
- ・ 身体障害者への資料郵送貸出については、登録利用者の高齢化等により利用が減少傾向にある。本サービスの登録には、手帳の所持を要件としているため、本サービスの更なる周知に加えて、本サービスの利用対象外となる障害者等へのサービス展開について検討している。

【図書館協議会委員からの意見】

- ・ 若い世代向けの PR に、アクセスの多い SNS を導入する傾向であるが、ポスターなどの PR で反応を示すことも多々あり、こういった受動的な手段で興味を持ってもらうのも有効と考える。企画展示も非常に魅力的なので、少しでも興味を持ってもらえるようになると良い。
- ・ パスファインダーの作成等、少ない人員、予算での様々な取り組みを評価する。
- ・ ハンディキャップのある方へのフォローは市町より県立図書館として取り組むべき部分と思う。ハンディキャップのある方への支援を考慮されたい。
- ・ 大学図書館との相互貸借について学生に PR すると良い。

【今後の方向性及び次年度の方針】

- ・ パスファインダーの発行点数の充実を受け、今後は地域に関する需要の高いテーマを扱い、利用者の調査ニーズをより満たすものを目指す。また、既存のパスファインダーについても、情報の更新・追加等を行い、より充実した情報提供を目指す。
- ・ 様々な関係機関と連携した展示や時節に応じた旬なテーマの展示を企画し、図書館利用や読書への興味・関心の喚起に努めるとともに、当館所蔵資料の PR を行う。
- ・ ホームページやフェイスブック等の更なる充実や活用により、非来館型サービスの充実を図る。
- ・ 利用者アンケートの意見を積極的に反映し、サービスを展開する。
- ・ 障害者、高齢者、外国人等、図書館利用に障害がある様々な方にも配慮し、資料の収集やサービス提供に努めるとともに、関係機関と連携し、資料等がより利用しやすい環境の充実を図る。